

月待ち



皆さん、今年の中秋の名月は見ましたか？ 旧暦の8月15日である十五夜は、今年は9月14日(日)でした。14日は少し雲が多かったですね。

鎌倉時代末期に書かれた兼好法師の『徒然草』(239段)には、「八月十五日、九月十三日は、婁宿(ろうしゅく)なり。この宿、清明なる故に、月を玩(もてあそぶ)に良夜とす」とあり、月を愛でる風習が古くからあったことがうかがえます。

(※婁宿:天球における天の赤道を、不均等に28個に分割した「二十八宿」のうちの一つ)

月の満ち欠けから考えられた旧暦では、毎月15日が満月です。その中でも、特に8月の満月は美しいとされ、「十五夜」として人々は供え物などをしました。十五夜は、米の収穫祭としての性格を持ち、月見団子を作り、萩やススキなどを供える慣わしがあります。十五夜には、他家の供え物の団子や、畑の作物を盗っても許される、という風習が全国にあります。十五夜の月だけを見ることを「片見月」と言い、昔から嫌がられ、必ず旧暦9月13日の「十三夜」の月も見ました(今年は10月11日です)。

十五夜以外にも、かつて、人々が特別の想いを持って月を見ていたことをご存知でしょうか？ 江戸時代には、「月待(つきまち)」という、月の出を待つ慣習がありました。「月待講」という、特定の日にちの月の出を待つ集団もあり、その代表的なものに二十三夜講や二十六夜講がありました。現在では全くなされていませんが、明野町でも月待が行われていたようです。その証拠に、月待講が奉納した石造物が残されています。

まずは、シンプルに「月待」と書かれた月待塔(写真1)。文字で「月待」と書かれています。少し分かりづらいですが、文字の上には、日輪と月輪が彫られています。「月待」に対して、日の出を待つ「日待(ひまち)」という慣習も存在し、それらは常に対で考えられていたそうです。そのため、日輪と月輪があわせて彫られているものと思われます。

次は、二十二夜塔です(写真2)。こちらは、あわせて「二十三夜」とも書かれています。二十二夜待の本尊は、女性的な姿をした如意輪観音のため、二十二夜講には女人講が多く、その祈願内容も安産祈願などが多かったそうです。

続いて二十三夜塔(写真3・4)ですが、こちらには勢至菩薩(せいしぼさつ)が彫られています。

勢至菩薩は、二十三夜待の本尊とされています。勢至菩薩の上にも、日輪と月輪が彫られています。江戸時代、江戸では月待が盛んに行われていたようですが、その実状は静かな民俗慣習ではなく、月の出を待っての宴だったようです。その江戸では、二十三夜待はあまり行われず、その代わりに二十六夜待が多く行われていました。

二十六夜の月は三日月のような細さで、尖った部分を下にして横向きに現れます。そのため、まず月の片方の先端、もう一方の先端、そして本体、と三度光が射し、そこから、弥陀三尊(阿弥陀、観音、勢至)の出現と崇められていました。明野町浅尾新田にある二十六夜塔(写真5・6)には、弥陀三尊の内の勢至菩薩が彫られています。

最後に七夜待塔(写真7・8)ですが、七夜とは、17日～23日にわたって六観音と勢至菩薩を祀ることです。七夜も月待をするのは大変なので、普通は七夜の中から一夜を選んだのではないかと考えられています。七夜待の最終日である二十三夜は、月待において重要と考えられていました。

現在より明かりが少なかった時代、人々は何を想って月の出を待ったのでしょうか？ 月は毎日姿を変化させていきます。夜、空を見上げてみてください。

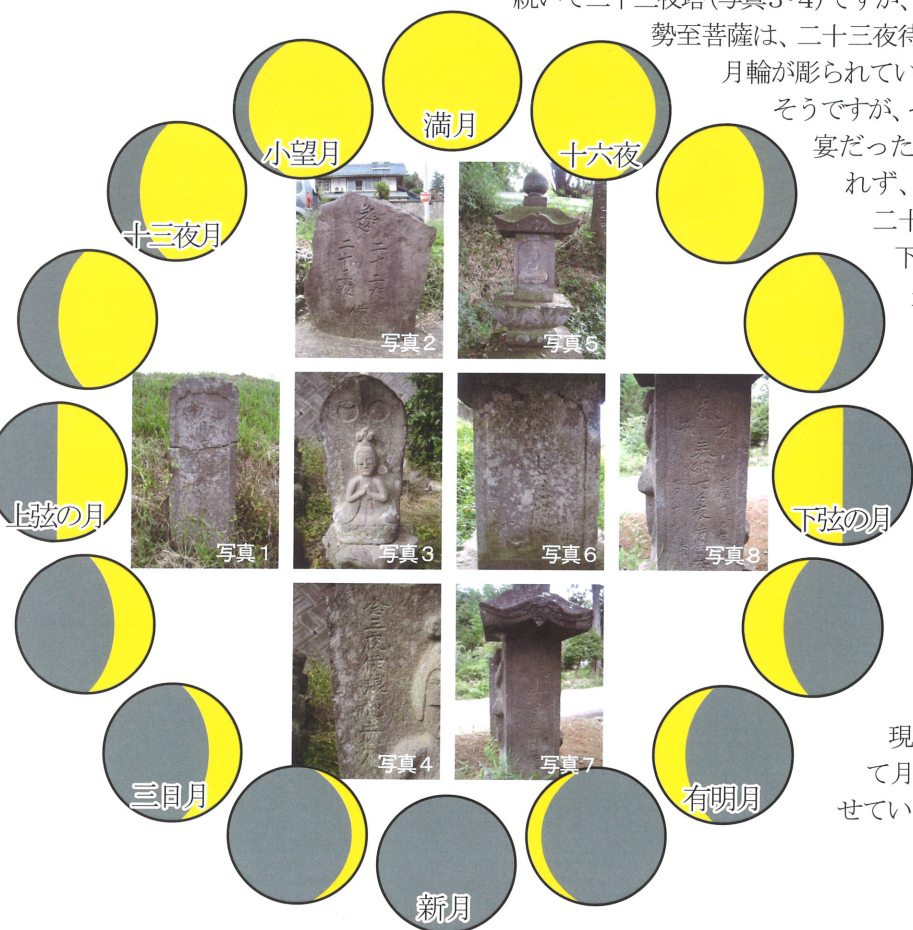


9月14日



9月16日

撮影:会員間間俊明氏



かやぶんミニ★ニュース

9月6日 和紙漉き体験!

「ドキドキ!! まいぶんシリーズ」のスペシャルイベントで、和紙の産地として有名な身延町西嶋から先生をお呼びして、和紙漉き体験をしました。和紙の原料である楮も見せていただき、それがどのように紙になっていくか説明をしていただきました。

そして、いよいよ紙漉きスタート! 今回は、A3判くらいの大きな紙2枚と、ハガキ3枚を参加者それぞれが漉きました。木枠に紙の原料を入れてもらい、前後左右に揺らして、水を下に落としていきます。

大きな紙の木枠はなかなか重そうでしたが、みんな頑張りました。水が垂れなくなったら机に移動して、色や模様をつけていきます。連続模様のようにする子、一枚の絵のようにする子、それぞれ個性が出ていておもしろいです。

大きな紙の模様つけが終わったら、次はハガキ。暑中見舞いや年賀状として使えるよう、季節感のあるものを作っている子が多くいました。

完成した和紙は、世界に一つだけのオリジナル和紙。大切に使ってほしいです。



かやぶんからのお知らせ

新会員さんのご紹介

篠原真清さん(北杜市)

茅ヶ岳歴史文化研究所に、新しい会員さんが入会されました。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

小中学生対象イベント(参加費500円)

=ドキドキ! まいぶんシリーズ=

2008年10月の予定~

★Let's 縄文体験 ※どんぐりクッキー作りは別の日です。

どんぐりクッキー作りの準備をするよ。
日にち: 10月2日(木) 午後5時~7時

★はじめての囲碁教室

楽しく囲碁を学ぼう♪初心者でも大丈夫!
日にち: 10月6日(月) 午後5時~7時

★たのしい手話教室

クイズやゲームをしながら、手話を覚えよう!
日にち: 10月16日(木) 午後5時~7時

★Specialイベント: おばあちゃんの知恵袋

「みんなの畑」で採れた野菜ですいとん作り♪
日にち: 10月18日(土) 午前10時~12時

★やさしい茶道教室

お茶のお作法を覚えよう。美味しいお菓子もあるよ。
日にち: 10月24日(金) 午後5時~7時

★おばあちゃんの知恵袋

可愛い土笛を作ろう! ペンダントにもなるよっ★
日にち: 10月29日(水) 午後5時~7時

ドキドキ! 埋文シリーズで、いろんな体験を楽しもう♪ 参加者申し込み受付中です!
お問い合わせは茅ヶ岳歴史文化研究所まで。

TEL / FAX : 0551-25-2019

=会員募集=

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

みんなことをやってみたい人は、ぜひ!

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金: 1000円 年会費: 1000円

=編集後記=

十三夜には美しい月が顔を出してくれるとよいですね。日中は秋晴れの日も数える程で、一気に冷え込む日が続くようになってきました。どうぞ皆様体調を崩されないようにお気をつけ下さい。

来月からはいよいよ、こども神楽教室が始まります。それぞれ新しい舞の他、今年は神楽の楽、篠笛と太鼓にもチャレンジ! 興味のある方は、どうぞかやぶんまでご連絡下さい。

かやぶんかわら版 第42号

平成20年9月30日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所(かやぶん)

〒408-0204 北杜市明野町上手8310
明野歴史民俗資料館内

TEL / FAX 0551-25-2019

ウェブサイト <http://www.kaya-net.jp>

E-mailアドレス info@kaya-net.jp